

北地域後援会は我孫子1～4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



しらかば北

発行責任者
井上文夫



「戦争は「めんだ!」の声 我孫子駅に響く

昨年末、岸田政権は「安保3文書」を閣議決定しました。これによって「敵基地攻撃(反撃)能力」の保有、軍事費「GDP 2パーセント」など大軍事拡大、大増税の道に踏み出しました。それらが実現したらアメリカ、中国に次ぐ世界3位の軍事大国になります。どが「専守防衛」でしょうか。また5年間で43兆円と今の約1.4倍の軍事費が必要となります。その財源は増税か国債発行になって国民の暮らしはますます厳しくなります。

は個人とともに、日本共産党我孫子北支部と北地域後援会なども加わり約20人もの人たちが参加しました。「大軍拡、大増税に反対する請願」の署名、ボードを使つてのシール投票、横断幕、チラシ、マイクによる音だし宣伝などで元気に訴えました。

無関心を通り過ぎる人たちが多いのも事実ですが、横断幕をじっと見たり、チラシを受け取って読む姿もありました。また積極的に署名してくれる人たちがシール投票では熱心に話し込む人もいました。行動が終わってから、「市民の人たちにもっと関心を持ってもらうためには、こうして定期的に宣伝を続けることが大事だね」と励まし合いました。(井)

約20人が参加し「大軍事拡大・大増税NO!」黙っていても日本は戦争に巻き込まれるのだから、去る2月9日と19日、我孫子駅南口と北口で宣伝を行いました。両日とも「安保法廃止を求めらるあびこ市民の会」に結集する九条の会や新婦人の会、あるいは



2階エレベーターから改札口へ



1階 ホームのエレベーター

1・2番線ホームにエレベーター完成

2月24日、我孫子駅1・2番線ホームに待望のエレベーターが完成しました。取手寄りの階段の脇でちよつと分りにくいのか、エレベーターに気が付かないのか、10日ほど経ちましたが、ほとんどの人が階段を上がっていました。

成田線からこのホームに到着した乗客の中には、大きなトランクの荷物とともにエレベーターを利用する人もいました。上野方面からの快速電車では10号車の停車位置がエレベーターに近いようでした。残る2つのホームのエレベーターも6月完成予定と言われています。(江)

花火

金利ローンと日銀総裁 日銀総裁の任期が切れ、新しい総裁が近々誕生するようです。政府は当初現総裁に後任総裁就任を打診し、断られたそうです。金融政策の選択肢が少なく、為替相場も混乱要因、且つ政府は日銀を子会社扱いし、コントロールしたい。そのような状況で選任されたくないのは当然です。▼新総裁と目されるのは大学教授、初の学者起用と話題になっています。政財界の新総裁への願望は、十年続いた異次元金融緩和を波風立てずに金利を上げることです。具体例を挙げると元本百万円に対する利息は現時点では数千円以下です。これを数年のうちに数万円の利息がもらえる様にする事です。沢山預金できる方には結構な話です。▼借りる側のローンの金利はどうなるでしょう。当然連動して利息以上に上がります。現在最優遇の35年住宅ローンは2%強ですがこれも上がっていくという事になります。住宅ローンなど長期のローンには、最後まで利息が一定の固定金利型と年に二回程その時の金利に変更する変動金利型があります。変動型は借入時には固定金利型に比べ数パーセント安く設計されています。そのため住宅ローン利用者の7割が変動金利型を選択しています。▼ちなみに、米国の金利は4%前後、また金利7%で複利計算すると百万円の元本に対し十年でほぼ倍額の九十六万七千円となります。長期のローン借り入れには細心の注意を！(香)

誰もが心地よく暮らすために
ジェンダー平等の社会を！
我孫子革新懇「新春のごよこ」

福富美穂子さんの講演「真のジェンダー平等とはなにか」は、大変分かりやすいお話で、日頃の思いや考えていたことが的確に整理されていく感じでした。まず、ジェンダーは社会的・文化的に作られる性別のことで、人々の意識によって作られたものだから、私たちの意識変革によって変えられるんだと力強い言葉が話されました。その為に法律の整備をし、フラットな感覚を生活の中で育てることが大事である。

男女格差を示す「ジェンダーギャップ指数」が、日本は146か国中16位(2022年)。

中でも、「政治」分野では13位(佐)

9位と突出した低さです。1970年9月に『国連総会』で採択された「女性差別撤廃条約」に、日本も1985年に批准していましたが、それを活かして新しい風を吹き込んでいける「選択議定書」の批准には至っていません。一日も早い批准を日本政府求めていきたいです！

ジェンダーの視点から見ると、ちょっとおかしいなと思ったことを見逃さずに「昔の当たり前」を「新しい当たり前」に変革していくことが大事なんだと激励されました。そして、何よりも私自身の意識変革こそが問われているんだと痛感させられたお話でした。



春を告げるメジロ [あけぼの山 農業公園で]
(撮影 中川)

いつまでも
お元気で

つくし野在住の後援会員で長らく一緒に頑張ってきた植田富美子さんが、我孫子を離れることになり2月26日お別れ会をしました。

88歳の植田さんが話された思い出の話です。

麦踏み

疎開で行った茨城で、葉が出そろった麦を踏み込んだと言われてびっくり。緑の小さな葉は避けて歩かないと叱られると思っていたのに…。麦は踏まれて、しっかりと元気に育つんだと知りました。私もどんなことがあっても、頑張っていくんだと思えました。

60年安保デモ

毎日のように国会のデモに参加しました。国会前はすべてに熱気がありました。学生も一般の人も参加していました。樺美智子さんが亡く



植田富美子さん

なったことも知りました。今の政治に対して、若い人たちに何故あの時のような熱気がないのかと思います。

一本の電話

私が皆さんと一緒に活動することになったきっかけは、一本の電話です。「野村貞夫さんは是非ご支持をお願いします」という真剣な女性の訴えでした。夫も私もずっと共産党支持ですと話しました。

数日して暗くなるころ、野村貞夫さんと女性が一緒に訪ねてこられ、今の政治を変え、くらしを守る活動に参加しましょうと話されました。

一本の電話でも心に響くものがあれば、気持ちが動き出すことがあるのです。選挙のお手伝いに電話するその一本が大事だと思っています。

(江)

この人に聞く
梶縄茂雄さん
(1)



つくし野にお住まいで名だたるソバ職人として知られる梶縄茂雄さんにソバ職人一代記を聞きました。

以前この『しらかば北』でも梶縄さんから、蕎麦に関する奥深い話を聞き、記事にして載せましたが、今回は梶縄さんご自身のソバ屋経営にまつわる話を聞きました。

梶縄さんは昭和18(1943)年生まれ、現在79歳。福井県九頭竜川のほとり、現在の勝山市で5人兄弟の次男坊として生まれました。中学時代は柔道をやっていた、活発な少年だった。親に反発して家を飛び出し山の中に逃げ込んだりして親に心配させたことなどもあった。親への反抗心もあって高校を中退し、東京に出たいと思っていた。近所の人で東京でソバ屋をやっていた人がいて、その人の縁で昭和35年ころ東京の代々木にあるソバ屋「代々木庵」に入店し、ソバ職人のスタートを切った。「代々木庵」は日本共産党の本部近くにあった。

ソバ屋で一旗揚げようと懸命に努力し、「代々木庵」でソバ職人としての腕を磨いた。そうした努力が認められて渋谷区の商工会議所から優良従業員として表彰を受けたこともあった。梶縄さんはソバ屋をやる以上は蕎麦について勉強しなければならぬと思い、原料の蕎麦やソバ打ちに関する勉強を続けた。梶縄さんのいたころの「代々木庵」は繁盛していた。そういう優良な店なのに店主は従業員の「のれん分け」、独立を認めようとはしなかった。

一旗揚げようと思っていた梶縄さんは、独立資金をためて昭和44年、27歳の若さで千葉県市川市の平田で店を出した。

当時市川市の平田は建設事業が盛んに進められていて、梶縄さんは建設工事現場の食事を引き受け、深夜の食事にも誠実に対応したため信用され、店の利益も上がっていた。

(以下次号)

計報

本紙22年4・5月号「この人に聞く」に登場していただいた三浦竹三さんが3月7日亡くなられました。88歳でした。心よりご冥福をお祈りします。